市長が語る『2021三島』　　第4回（4/26･4/28）放送分

# 共創によるまちづくりの推進

アナ：　「市長が語る 2021 三島」第 4 回の今日は、「共創によるまちづくりの推進」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願いします。

**市長：　よろしくお願いします。**

アナ：　「共創」は、あまり聞き慣れない言葉ですね。一体どういった意味でしょうか。

**市長：　「共創」は共に創ると書きます。共創によるまちづくりは文字どおり、市民、民間事業者、行政などが一緒になって課題の解決策を考えたり、まちづくり活動に取り組んだりしていくことで、今年度からスタートいたしました第５次三島市総合計画という、今後１０年間のまちづくりの羅針盤となる計画にも、重要なキーワードとして記載いたしました。**

アナ：　三島市は、以前から「市民との協働」が盛んなまちという印象がありますが、なぜ、今、「共創」なんでしょうか？

**市長：　今後、人口減少と少子高齢化による様々な課題を克服していかなければなりませんが、三島市をはじめ地方自治体の予算や人材には限りがございます。これからは、これまでの協働の取り組みを大切にしながら、これを一歩進め、計画段階から民間事業者、市民等と対話を通じて連携することが必要であると考えます。そして、それぞれの持つ知識やノウハウ、資源などを結集することにより、社会や地域の課題解決につながる新たな価値を創出していく「共創」へと進化させ、行政のあり方を変革していきたいと思います。**

アナ：　なるほど。三人寄れば文殊の知恵ですね。この「共創」を進めていくために、三島市がまず取り組んでいくことは何でしょうか。

**市長：　はい。まずは、令和３年度の機構改革におきまして、担当課の政策企画課の中に共創推進室を設置いたしました。同室の主な役割としては、官民連携のワンストップ窓口となり、複数課に跨る民間事業者等からの相談・提案を調整することや、共創の取り組みを進める上での指針などを作成すること、さらには、多様な立場の市民や民間企業などと対話を重ね、新たな価値を創造し、課題解決のアイデアを生み出すことができる人材を育成していくことです。これらの役割を同室に持たせることで、市役所全体に共創の考えに基づく取組を広げていきたいと考えております。**

アナ：　お話を伺っていても、まだまだイメージが湧きにくい「共創」ですが、現在進行形で進んでいる「共創」の具体的な取り組みは何かありますか。

**市長：　はい。例えば、移住定住促進施策におきまして、複数の民間事業者と三島市で構成する「みしま移住定住研究会」を、去る２月１日に設立いたしました。この研究会には、移住定住に関して先進的な取組みをされている、あるいはインターネットを活用した情報発信で高い技術力を持つ事業者などにご参加いただいてお**

**ります。これまで移住定住の促進は、市だけで移住希望者からの相談に応じたり、必要な情報を提供したりしてきましたが、今後は研究会に参加していただいている民間事業者と連携し、ノウハウや情報を持ち寄る中で、より質の高い相談対応を実現したり、移住者目線で、より効率的に三島の魅力についての情報発信をしたりできないか、対話を重ねながら検討を進めております。**

アナ：　なるほど。行政と民間それぞれの情報やノウハウ、あるいは、できることを持ち寄ることで、新しい取り組みや、今までできなかったサービスの提供ができるようになったりするということですね。

　最後に、共創によるまちづくりへの意気込みを一言お願いします。

**市長：　共創の考え方は、先ほど申し上げたような民間事業者と市役所との連携だけではなく、市民の皆様との連携にも当てはまるものです。関係するすべての皆様にご参加いただく中で、共創によるまちづくりを推進し、より複雑化・多様化する社会や地域の課題を克服し、本市の持続的発展に結んで参りたいと考えておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。**

アナ：　豊岡市長、本日はありがとうございました。

**市長：　ありがとうございました。**